

令和6年度 長野県林業大学校 評価表

評価 A：目標を上回った B：ほぼ目標どおりできた C：目標を下回った

長野県林業大学校 教育方針

長野県林業大学校は、長野県林業の近代化を推進するため、専門的な知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者となる有能な人材を養成することを目的として、行学一致の総合的な教育を行う。

- 1 一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成を図らせるなど指導者となるための全人教育を行う。
- 2 大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並びに知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う。
- 3 実験・実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う。

重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
日本一の林業大学校を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の林業大学校を目指すには、他校に比べても優れた講師・講義レベル・施設・機械装備であることが必要となるが、それは多大なる予算措置を伴うものとなり、非常に厳しいのが現状である。 ・本校では、講義内容の徹底した検討と、企業等との連携協定などにより、資産や施設・機械装備をより効率的に利用することで、より高いレベルの教育内容の実現を目指している。 		B
今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで以上のレベルを意識した講義手法・カリキュラム・学習活動の見直しを随時教務会議で検討している。 ○安全で正確な最高レベルのチェーンソー操作技術取得を目指すJLC(「第5回日本伐木チャンピオンシップ」)が6月1日・2日に青森県で開催され、本校2年生2名が出場した。大会に先立ち本校卒業生(当大会ブロンズ優勝者、ジュニアクラス優勝者)を始め県内有力選手との練習を重ね、トップレベルの技術習得に励んだ。 ○令和6年10月に「信州伐木チャンピオンシップ」が開催され、本校2年生3名が出場、ビギナークラス3位入賞を果たしたほか、選手以外の学生も審判・スタッフとして参加し、技術研鑽と知識習得を行った。 ○令和7年9月に開催予定の「第6回日本伐木チャンピオンシップ」に向け、1年生がトレーニングに取り組んでいる。 		B
器具・機械の更新、学習教材・機器の整備及び演習林の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○高性能林業機械については、令和2年度購入のフォワーダに続き、令和3年度はウインチ付グラブを購入。その他必要な高性能林業機械についてはレンタルにて調達し、これらを駆使し、より実践的な実習を実施している。 ○令和6年9月に高性能林業機械シミュレーターを導入。上記高性能林業機械と合わせ、実践的な訓練時間の増加が図られた。 		B
大学等教育機関、行政組織、地域団体・企業等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年10月に、地元企業等から構成された「我ら林大応援団」が設立され、地域を挙げた支援を受けている。 ●平成29年9月に締結した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」により、コロナ禍以前は高度な高性能林業機械操作実習を実施していたが、コロナ流行後、従前レベルの連携・交流の再開に向けて、各校合同での実習の可能性等について模索中である。 ○平成29年5月に締結したハスクバーナ・ゼノア機との教育連携協定に基づき、国内最高レベルのチェーンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」を実施している。 ○岐阜、京都との3林大のチェーンソー技術競技・交流会が令和6年11月に京都で開催され、各校との交流、技術研鑽を図ることができた。 ○令和3年度から実施している上松技術専門学校との連携について、今年度も2学年の選択コースのうち「木材利用学」の実習を上松技術専門学校で実施を図ることができた。高度な木材加工技術の取得が期待される。 	<p>コロナ流行以降は、木曾郡内において高性能林業機械の操作実習地を確保して、実習を実施するとともに、令和6年9月に本校で導入したシミュレーターを活用した実習もを行っている。選択コースの実習地として信大演習林を活用するなど、連携・交流再開に向け調整を図っている。</p>	B
2年生の進路の早期確定と2025年度入学志願者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○一年次から面談を重ね本人の意向を把握した上で、早期に具体的な就職先を選定できるよう促してきた。またインターンシップや会社訪問などを本人の希望等を尊重しながら実施している。 ○公務員志望者に対しては、教職員がそれぞれの担当分野について放課後に特別講義、及び面接練習を実施した。 ○6月～7月上旬にかけて、県内の公立農林系高校の11校全て、近年の受験実績等をふまえた公立高校等、計46校への学校訪問を実施し、本校への受験を促すとともに、本校の見学を希望する学生や保護者に対応した。 ○適切な感染予防対策を講じた上で、1回目(7月27日)と2回目(8月25日)の計2回「オープンキャンパス」を開催し、入学を希望する者には個別相談にも応じた。(1回目54名、2回目42名が参加(保護者家族等を含む。)) ○こうした取組の結果、2025年度の入学志願者は、推薦・一般合わせて29名(うち女子3名)となり、ほぼ例年並みの志願者数を確保することができた。 		B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
学習指導	授業実習内容の充実を図る。	【継】「最高の学習環境」を目標に置きながら、学生の満足度も把握し、質の高い講義内容に進化する努力をしているか。	○アンケートや小テスト等により、学生の理解度を把握し、実物や写真等を活用することで、学生の興味を引く授業を展開している。	○教室、講堂に令和5年度にアクセスポイントを設置し、Wi-Fi環境を整え、タブレット端末の利用環境を向上させた。		B
		【継】 学生が、自ら考える力を習得するよう指導できたか。	○学生の自主性を重んじる「自主研究」の充実を図るため、教務全員で学生個々の課題の指導に取り組んでいる。	○演習林をフィールドとした自主研究活動など、様々なテーマを設定し自主研究が展開されている。		B
		【継】 現場に促した知識の取得、技術力の向上を目標とした実習内容を行なったか。	○関係機関との連携協定・覚書を締結することで最高レベルの技術者や環境・機械を使用する実習を可能にし、学生の技術力向上が促進されている。	●地元林業士の人数が高齢化等により減少し、今後指導体制が弱体化する可能性がある。	林業士の不足に対し、地域内外からの人材支援を図る。	B
	既存カリキュラムの充実・見直しを図る。	【継】「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進や、現場で使える知識、技術、時代変化に対応し林大らしさを踏まえたカリキュラムの見直しが図られたか。	○産業界、現場からのニーズの変化に対応するため、県庁担当課と林業総合センターとともに検討し作成した変更案により、令和8年度入学生からカリキュラム変更に向けた手続き等を進めている。			B
		【継】 卒業生、在校生、保護者へのアンケートを踏まえ、県庁担当課と今後の本校の目指す姿を含めた新たな授業内容を検討できたか。	○アンケート結果を踏まえ、県庁担当課と協議を実施。今後の林大の在り方と目指す姿を検討した。			B
効率的・計画的な実習等で学習効果を高める。	【継】 他大学、地域(木曾青峰高校を含む)、企業等関係機関と連携し、実習の向上が図られたか。	●平成29年9月に締結した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」により、コロナ禍以前は高度な高性能林業機械操作実習を実施していたが、コロナ流行後、従前レベルの連携・交流の再開に向けて、各校合同での実習の可能性等について模索中である。【再】○平成29年5月に締結したハスクバーナ・ゼノア機との教育連携協定に基づき、国内最高レベルのチェーンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」を実施している。【再】○岐阜、京都との3林大のチェーンソー技術競技・交流会が令和6年11月に京都で開催され、各校との交流、技術研鑽を図ることができた。【再】○令和3年度から実施している上松技術専門学校との連携について、今年度も2学年の選択コースのうち「木材利用学」の実習を上松技術専門学校で実施する予定。高度な木材加工技術の取得が期待される。【再】○木曾青峰高校との連携については、双方の授業に講師派遣をするとともに、本校の林業機械学実習において、高校生の授業見学を実施。	<p>コロナ流行以降は、木曾郡内において高性能林業機械の操作実習地を確保して、実習を実施するとともに、今年度本校でシミュレーターを活用した実習もっている。選択コースの実習地として信大演習林を活用するなど、連携・交流再開に向け検討中。【再】</p>	B		
	【継】 木曾谷・伊那谷フォレストバレー」の形成や、林業大学校・木曾青峰高校、上松技術専門学校での三校連携を図るため、協議会の場などで今後のビジョンの方向付けが出来たか。	○現時点で今年度の「木曾地域三校連携推進会議」を9月25日に開催し連携状況の確認や連携強化の方策について検討を行った。(三校連携推進会議幹事会は9月12日、11月8日、1月23日実施)			B	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
教育活動	進路指導	個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【経】・1年生は12月末を目途に将来の進路を確定できるように指導できたか。 【経】・2年生は12月末を目途に就職先を決定できるように指導できたか。 【経】・円滑な就職に向け、インターンシップや個人面談を計画的に実施できたか。	○1年生は個人面談やインターンシップ等により希望を把握している。 ○2年生は個人面談により就職先を確定できるよう取組み、令和6年内に進路を確定することができた。 ○インターンシップを実施することで、就職先とのマッチングを深めた。	・1年生に向け、個々の希望を踏まえた企業情報などの情報を的確に提供し、令和7年内の進路決定に努める。	B
		就職・進学の情報提供	【経】・学内掲示板、個人面談を利用して、的確な求人情報が提供できたか。	○林大への求人情報を随時掲示するとともにホームルーム等で全員に周知した。 ○適宜個別に情報提供した。		B
		社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成	【経】 規則正しい生活や地域活動を通じて、社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 【経】 教務会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。	○新型コロナウイルス等の感染状況に応じたマスク着用、手洗い・手指消毒、換気、ソーシャルディスタンスの徹底等を行うとともに、健康な体づくりのため毎朝のラジオ体操を行った。 ○水無神社例大祭（みこしまくり）に参加したほか、「木曾の手仕事市」へのボランティアスタッフ参加、木曾こども園児への「しいたけ植園体験」指導、「雪灯りの散歩道」など、地域とのつながりをできる範囲で行っている。 ○教務会議を32回（令和7年3月17日現在）開催し、職員間の情報共有や対策の検討が図られた。 ○専門のカウンセラーを委嘱し、学生の悩み事相談にのっている。		B
	生活指導	寮の自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 【経】 学生自治会の情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。 【経】 教授間の情報共有と全員で指導する体制ができたか。	○寮部屋をコロナ禍前の学年混合の体制に戻し、学年間の交流や寮内での各係の役割分担や自治組織の適切な運営ができるように努めている。 ○教務会議を通じて、教授間の情報共有を図り、方向性を明確にしながら、学生自治会との情報共有を図ることとしている。		B	
		林業機械や施設機器の充実と適正な管理	【経】 実習等に必要機械・設備は充分確保されているか。 【経】 関係機関との連携により、保有していない高性能林業機械分の必要機械の効率的な利用ができたか。 【経】 演習林の整備に向けて、木曾青峰高校や地域の関係者との協議が図られたか。	○チェーンソーについては、最新式を1人1台所持して実習できる体制となっている。 ○労働安全規則改正に伴い、防護ズボン、防護ウェア、防護ブーツ、イアム付ヘルメットなど、安全装備1式をトータルコーディネートで導入している。 ○高性能林業機械の一種であるウィンチ付グラブを令和3年度に購入し、実習の充実を図っている。 ○演習林の木曾青峰高校との共同利用について、4月以降複数回、打合せを実施した。今後はより具体的な取組みについて議論していく予定。		B
		学校用地や施設の適切な維持管理	【経】 学生の安全で健全な生活が確保できる施設の維持管理がなされているか。 【経】 実習棟・機械庫等は、定期清掃日の設定などにより整理整頓がなされているか。	○機械の補修についてはタイムリーに行い、情報共有もされている。 ○使用後の保守点検は学生により円滑に行われ、チェーンソーの保守点検簿が作成されている。	引き続き適切な維持管理のための予算要求を行っていく。	A
学校運営	林大の魅力発信と学生確保の活動	【経】 学生募集のパンフレット及びポスターを作成・配布し、林業大学校への関心を高めることができたか。	○5月に学校案内（パンフレット）及びポスターを「令和7年度対応版」として作成し、過去に受験実績のある県内高等学校、本校への入学実績のある県外高等学校、県内全市町村、県内林業関係団体等に配布した。 ○6月～7月上旬にかけて、県内の公立農林系高校の11校全て、近年の受験実績等をふまえた公立高校等、計46校への学校訪問を実施し、本校への受験を促すとともに、本校の見学を希望する学生や保護者に対応した。【再】		B	
		【新】 他県にも多くの林業系短期大学校等が設立される中、本校を選んでもらえるよう魅力を発信できたか。	○国内・世界最高レベルの技術取得を目指すJL C（「日本伐木チャンピオンシップ」）が昨年5月に青森県で開催され、当校から学生代表で2名が参戦した。また本校卒業生がプロクラス、ジュニアクラスでそれぞれ優勝し、この成果を知事への表敬訪問、オープンキャンパス、視察やイベント時等、あらゆる機会を捉えてPRに努めた。		B	
		【経】 オープンキャンパスの開催及び高等学校への訪問など積極的なPR活動を実施することができたか。	○7月下旬と8月下旬の計2回、オープンキャンパスを開催した。案内や説明役として在校生中心に行い、参加者からは「学生の説明がわかりやすく、具体的にイメージできた。」「学生と直接話すことが出来て良かった。スコ技披露も良かった。」と大きな関心を寄せていただいた。 ○過去に受験実績のある県内高等学校46校を訪問し、進路指導主事等に面会して本校への入学志願者確保に努めた。 ○令和7年度の入学志願者は、推薦・一般併せて29名（うち女子3名）とほぼ例年並みの水準を確保できた。前年度と比べると、県内の志願者数は同数だったが、県外の志願者数は3名減っており、今後も学校訪問活動による当校メリットの積極的なPRは欠かせない。		B	
		【経】 女性志願者の確保に向け、創意工夫を凝らしたPR活動が出来たか。	○5月に「令和7年度対応版」として製作した「学校案内（パンフレット）」及び募集用ポスターでは、OBメッセージで現在森林組合で活躍するOGの声を載せるなど、女子志願者の動機づけになる工夫をした。 ○7月と8月のオープンキャンパスでは、会場に「先輩からのメッセージ」展示コーナーを新たに設け、現在林業事業体や森林組合・行政等で活躍する女子卒業生の姿を写真でも紹介し、来校した学生や保護者の志願動機づけになるよう努めた。 ○こうした取組の結果、女子の入学志願者は令和4年度は1名、令和5年度は6名、令和6年度は3名となり、一定の女性志願者を確保できている。		B	
	【経】 2025年度入学者の定員を確保できたか。	○推薦・一般併せて令和7年度の入学予定者は20名（うち女子2名）となり、定員を確保することが出来た。		B		
	ホームページの充実を図る。	【経】 魅力的なホームページとなっているか。 【経】 学校の概要及び取組が適切にPRされているか。 【経】 必要な情報提供が行われているか。	○県公式ホームページでの適時更新を行うとともに、独自ホームページ（nagano-rindai.ac.jpアカウント）では画像、動画なども活用して本校の魅力を発信している。 ○現在情報発信の主流となっているSNS（フェイスブック、インスタグラム）には学生が主体となって、実習や地域行事への参加等の状況を随時更新を行い、多くの「いいね」をいただいている。		B	
その他	コンプライアンスの実践が図られているか。 【経】 法令を順守しているか。 【経】 予算が適正に執行されているか。	○授業から学校運営に至るまで、法令を順守して実施している。 ○林務部コンプライアンス行動計画に基づき行動している。 ○予算執行については、適時的確な予算執行を行っている。 ●学校運営に必要な費用の継続した確保の対応	引き続き予算確保に向けた取組みを行っていく。	B		